

いしかりじしん  
**石狩地震**

天保5（1834）年1月1日（新暦2月14日）石狩地方で発生した地震。地震は天保5年元旦の午前10時頃に起り、地面が割れて泥が吹き出しました。余震は2月22日（新暦3月31日）まで毎日続き、1月14日には最大の余震が起っています。石狩から小樽にかけて多くの建物が倒壊しましたが、死傷者は出ませんでした。石狩に駐在していた松前藩士はオタルナイ（現在の銭函）へ、それ以外の和人やアイヌはアツタやオタルナイに避難しました。

この地震では液状化現象が起っており、石狩川河口付近では震度5強以上、マグニチュード6.5以上あったと考えられます。被害記録が石狩川河口地域に集中していたため「石狩地震」と呼ばれ、震源地は石狩川河口付近とされていました。しかし近年、札幌市内で大規模な噴砂の跡が確認され、札幌市内に震源を持つ直下型地震であったと推定されています。

（工藤義衛）

表. 主な被害.

建物	倒壊	大破・半壊
制札場 ※	1	-
運上屋	2	-
弁天社	-	2
茅葺の蔵	6	-
板蔵	4	23
魚蔵	6	-
アイヌの住宅	23	3
アイヌの倉庫	-	13

※ 制札場:お触れなどの掲示板

天保五年五月十八日、御用番大久保加賀守殿江差出私領分西蝦夷地の内イシカリと申す場所、当正月朔日巳の刻より地震発、二月廿二日迄日々地震にて、地割泥吹出、制札場其外破損の覚

一 制札場破損、一ヶ所  
 一 会所潰。二軒  
 一 弁天社大破、貳軒  
 一 板蔵潰、四軒  
 一 同半潰、廿三軒  
 一 茅葺蔵潰、六軒  
 一 蝦夷家潰、廿三軒  
 一 同半潰、三軒  
 一 蝦夷人物置、十三軒  
 一 魚蔵潰、六軒

右之通御座候。人馬怪我等無御座候。此段御届申上候、以上  
 四月十九日 松前志摩守  
 （天保雜記・大日本辞地震史料より）

- (1) 石狩市（1998）第3章災害・環境保全. 石狩町誌下巻.
- (2) 笠原稔ほか（2012）北海道の地震と津波. 北海道新聞社.
- (3) 松前町（1977）町年寄日記抜書. 松前町史史料編第二巻.
- (4) 文部省震災予防評議会編（1941）大日本地震史料第三巻.